

浮足立つ一考察

波木井 優子

1. はじめに

令和元年度「国語に関する世論調査」（文化庁）の結果の中で、「辞書等で本来の意味とされてきたもの」と異なる意味の方が多く選択された慣用句が三つ挙げられている⁽¹⁾。その中でも、「浮足立つ」は本来の意味とされてきたもの（「(イ) 恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている」）の選択される割合が 26.1%と三つの中でも一番低く、「(ア) 喜びや期待を感じ、落ち着かずそわそわしている」という意味を選ぶ割合が 60.1%に達している。

筆者はこの結果に興味を覚え、「浮足立つ」という言葉の先行研究を探してみたが、管見の限りでは見当たらなかった。そこで、この言葉がいつ頃からどのように使われていたのか、また、上記の（ア）の意味での使用がいつ頃から起こってきたのか、実際の用例から調べてみたい。

2. 辞書記述

「浮足立つ」の意味を現行の国語辞書により調べる。『広辞苑』（第七版）は国語辞書の代名詞的存在であるためまず確認し、『日本国語大辞典』（第二版）で初出をどのように扱っているかを調べ、『デジタル大辞泉』は日々データが更新されていることから、新しい意味の掲出状況を知るために引くものである。その他にも各種国語辞書により、意味記述に違いがあるか調べてみることにする。

2. 1 『広辞苑』第七版

期待や不安など先が気になって、今のことに気分が集中できなくなる。浮足になる。「不意をつかれて一・つ」「勝利を目前に一・つ」

『広辞苑』では、集中できなくなる要因が「期待や不安」となっている。これは「国語に関する世論調査」の「(ア) 喜びや期待を感じ、落ち着かずそわそわしている」と「(イ) 恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている」の両方に該当すると思われる。掲載されている例文を見ると、「不意をつかれて一・つ」の方は（イ）の方の意味かと思われるが、「勝利を目前に一・つ」の方は、（ア）の状況なのか（イ）の状況なのか、前後の文脈がないと判断し難い。

2. 2 『日本国語大辞典』第二版

(1) かかとが上がって、つま先立ちとなる。

*今弁慶〔1891〕〈江見水蔭〉八「なほも引けば、浮足立（ウキアシダ）ち

て海中より、裸（はだか）の漁師は引上げられ」

(2) (不安や不満を感じて) 逃げ出しそうになる。逃げ腰になる。また、そわそわして落ち着かなくなる。

＊大增訂ことばの泉〔1908〕〈落合直文〉補遺「うきあし - たつ（句）浮足立」

＊形〔1919～22頃か〕〈菊池寛〉「猩々緋の武者の前には、戦はずして浮足立った敵陣が」

＊春泥〔1928〕〈久保田万太郎〉冬至・五「おもひなしか往来をあるいてゐる人たちでも浮足立（ウキアシダ）って感じられた」

『日本国語大辞典』の(1)の意味記述は言葉通りの「かかとが上がっている」状態を表し、(2)は「国語に関する世論調査」の「(イ) 恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている」に該当すると考えられる。(2)の初出は1908年の『大增訂ことばの泉』で、当初は(イ)の意味で使われ始めたことが分かる。また、『日本国語大辞典』には(ア)に当たる意味記述は掲載されていない。

2. 3 『デジタル大辞泉』

1 不安や恐れで落ち着きを失う。逃げ腰になる。「倒産のうわさに社員が一・つ」

2 俗に、期待で浮かれた気持ちになり、そわそわする。「開幕を前に一・っている」

『デジタル大辞泉』の意味記述1が「国語に関する世論調査」の(イ)に、2が(ア)に該当していると考えられる。両者とも「落ち着かない」というところは共通するが、それが「不安や恐れ」などのネガティブな感情からくるものと、「喜びや期待」などのポジティブな感情からくるものとで区別されている。『日本国語辞典』には掲出されていなかったポジティブな感情からくるものを、『デジタル大辞泉』では、「俗に」とことわりながら、加えている。

これらのことから、「浮足立つ」が使われ始めた当初は、ネガティブな感情を表すのに使われていたが、その後ポジティブな感情でも使われるようになったと見ることができる。

2. 4 『新明解国語辞典』（第八版）

不安や恐怖にかられて逃げ腰になり、冷静な行動（判断）が出来なくなる。「浮き足立った守備/これくらいの劣勢で浮き足立っては〔逃げ腰になっては〕困る」

『新明解国語辞典』（第八版）は2020年発行の新しいものであるが、ネガティブな

感情を表す意味記述のみ掲載されている。本稿で調査した中では、これと似通った意味記述が以下の辞書に見られる。

『大辞林』（第四版）

恐れや不安を感じて逃げ腰になる。落ち着きがなくなる。「敵の攻撃に一・つ」
「解散の気配に議員たちは一・つた」

『大辞泉』（第二版）

不安や恐れで落ち着きを失う。逃げ腰になる。「倒産のうわさに社員が一・つ」

『集英社国語辞典』（第三版）

落ち着きを失う。逃げ腰になる。

2. 5 『三省堂国語辞典』（第七版）

①にげごしになる。②そわそわしておちつきがなくなる。③〔俗〕浮き立つ。
うきうきする。

『三省堂国語辞典』（第七版）の意味記述①はネガティブ感情を表現していると思われるが、②は例文がないので、「期待感」などのポジティブ感情からくるものなのかどうか、なんとも判断し難い。しかし、③の「うきうきする」は、『デジタル大辞泉』に見られた「期待で浮かれた気持ちになり、そわそわする」よりも一段階上のポジティブ感情を表現していると考えられる。

本稿で調査した中で、この①と②の意味記述と似通ったものが以下の辞書に見られる。

『明鏡国語辞典』（第三版）

そわそわして落ち着かなくなる。また逃げ腰になる。「不意を襲われて一」

『岩波国語辞典』（第八版）

今にも逃げ出しそうになる。また、そわそわと落ち着かなくなる。

『現代国語例解辞典』（第五版）

逃げ腰になる。また、そわそわして落ち着かなくなる。「エラー続出でチーム全体が浮き足立つ」

ここまで国語辞書を数種見てきたが、ポジティブ感情を表す意味記述を掲出しているのは、『デジタル大辞泉』と『三省堂国語辞典』（第七版）だけであった。

3. 用例調査

次に、「浮足立つ」がいつ頃からどのように使われているのか用例を調査するが、「浮足」の後ろに「立つ」が共起する用例のみを考察し、それ以外は除外する。また、今回の調査ではデータが大量であったため、用例を全部掲載することはせず、抜粋して紹介することにする。

3. 1 中納言

国立国語研究所の中納言により、9種のコーパスの個別検索で⁽²⁾、短単位検索の発音形出現形に「ウキアシ」と入力して検索したところ、合計82件あった。このうち、「浮き足になる」、「浮き足がちて」、「浮き足を立てる」などを除いた、「ウキアシタツ・ウキアシダツ」は以下のように計74件であった。

	ウキアシ	ウキアシタツ/ダツ
現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版	75件	73件
日本語歴史コーパス	6件	0件
名大会話コーパス	1件	1件

「日本語歴史コーパス」では1894年～1925年までの用例が6件確認できたが、「タツ/ダツ」と共起するものは見つからなかった。「ウキアシタツ/ダツ」という言葉は、『日本国語大辞典』の初出が1891年（明治24年）であったことから見て、明治中期には使われていたが、それほど古くからあった言葉ではないと推測される。

また、「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版」には1985年～2008年までの用例が見つかった。この中で一番古いものと新しいもの、それに加え、1件だけ見つかった「名大会話コーパス」の用例を以下にあげておく。

- ・モダンなソファに坐って演歌の打ち合わせをしていると、何となく浮き足だつて不安になる」「ちえっ、きいたふうな言いわけをいうな」（1985 山口洋子『演歌の虫』）
- ・テルマにとっては大冒険。自分の勇気にちょっぴり浮き足立っていたかもね。（2008 Yahoo!ブログ）
- ・大体そんな状況ないもん、日常生活に。うーんしかもそんな浮き足だつてたくない。うーん、なんなん、毎日観光旅行みたいな気分で一（2001 院生室20代後半女性）

3. 2 東洋文庫

JapanKnowledge Libの「東洋文庫」により、「浮足」or「浮き足」で全文検索したところ、合計28件ヒットした。そのうち、「立つ」と共起しないもの1件を除くと1963年～2008年までの27件の用例が見つかった。以下に初出を含む古い用例2件と、一番新しい2008年の用例をあげる。

- ・「將軍どのは突然のご発病、奥方をお呼びじゃ」召使たちは浮き足立って俊の

顔を見るものもない。(1963 前野直彬『唐代伝奇集 1』)

・敵勢は多く、味方は小数であった。一群の兵士どもが浮足立つと見てとった息子は大声張り上げて言った。(1964 サアディー・蒲生礼一訳『薔薇園 イラン中世の教養物語』)

・そして全員が、駱駝を山の向こうへ、さらに浮き足立った敵の先頭へ狂ったように逆落として狂ったように突っ込んだ。(2008 T.E. ロレンス J. ウィルソン編田隅恒生訳『完全版知恵の七柱 2』)

3. 3 朝日新聞記事データベース 聞蔵Ⅱビジュアル

3. 3. 1 朝日新聞縮刷版 1879～1999

「朝日新聞縮刷版 1879～1999」タブにより、「浮足立 or 浮き足立」、「浮足た or 浮き足た」、「浮足だ or 浮き足だ」を見出し検索したところ、それぞれ 46 件、4 件、7 件で、合計 57 件見つかった。

この中の一番古い用例 2 件 (1914 年と 1916 年) の「浮足立つ」には、「うきあしたつ」とルビが振ってあることや、ひらがな表記の「浮足たつ」の用例が 1933 年～1969 年で終わっていること、さらに、「浮足だつ」の用例が 1964 年に初めて見られることから、古くは「ウキアシタツ」と発音されていたことが分かる。以下にこれらの用例と、立教大学の見出しもあったため紹介しておく。

- ・独逸軍に浮足立つ 数軍団を塙の為に割いた (1914. 9. 14 東京朝刊)
- ・浮足立つた被告連の答弁 一松検事の鋭い質問 執行猶予がフイになる心配 (1916. 9. 21 東京朝刊)
- ・慶応の逆襲に会い、立教浮足立ち敗退 慶の勝因は軽打戦法の賜物 東京大学野球リーグ戦 (1933. 5. 22 東京朝刊)
- ・密雲、北平間の電話線、昨夜から不通 浮足たつた中央軍 (1933. 5. 16 東京夕刊)
- ・日本、ソ連を破る 男子バレー 変化サーブが威力 ソ連 浮足だちミス続出 (1964. 10. 20 東京朝刊)

3. 3. 2 朝日新聞 1985～・朝日新聞デジタル・週刊朝日・AERA

「朝日新聞 1985～・週刊朝日・AERA」タブにより、「浮足立 or 浮き足立」、「浮足だ or 浮き足だ」、「浮足た or 浮き足た」を入力し検索したところ、「浮足た or 浮き足た」がなく、「浮足立 or 浮き足立」が 1973 件、「浮足だ or 浮き足だ」が 477 件であった。以下にここでの一番古い用例と 2021 年の最新の用例をあげる。

- ・採用側が動けば、学生の側も浮足立つ。「寄らば大樹の陰」の安定志向がいぜん強い中で、大企業、有名企業の限られた採用枠をめがけて、裏口からの就職運動にかけ回る者も少なくない。(1984. 9. 3 朝刊)
- ・思いがけないヒットを受け止めつつ、浮足立たない冷静さが印象に残った。(2021. 1. 3 横浜一地方朝刊)

3. 4 ヨミダス歴史館

3. 4. 1 明治・大正・昭和 1874~1989

「明治・大正・昭和 1874~1989」タブで見出し検索したところ、「浮足立 or 浮き足立」が 42 件、「浮足た or 浮き足た」が 2 件、「浮足だ or 浮き足だ」が 0 件であった。

ここでの初出に 1910 年 5 月 27 日の用例が抽出されたが、中を確認したところ、「浮足となりて」であったため対象外とすると、「浮足立つ」の初出は 1933 年であった。以下に古い用例を 3 件あげる。

- ・敵早くも浮足立つ (1933. 2. 27 夕刊)
- ・巨人軍は力の攻め イ軍攻守に浮足立つ (1937. 4. 15 朝刊)
- ・敵軍全線に亘り浮足立つ (1937. 09. 13 朝刊)

3. 4. 2 平成・令和 1986~

「平成・令和 1986~」タブで全文検索したところ、「浮足立 or 浮き足立」が 1469 件、「浮足た or 浮き足た」が 1 件、「浮足だ or 浮き足だ」が 272 件であった。ここでの一番古い用例と最新の 2021 年の用例を以下にあげる。

- ・1 球ファウルで失敗のあと、続けざまのサインを見破れなかった視野の狭さ。この試合のキーポイントだった頼みの投手がこれでは、若い投手が浮足立っても無理はない。(1986. 09. 22 東京朝刊)
- ・「天理大は浮足立たず、自分たちのラグビーをやりきった。関西が強くなるには天理大 1 強ではいけない。(2021. 01. 12 大阪朝刊)

ここまでの調査により、「浮足立つ」の最も古い用例は朝日新聞の 1914 年（大正 3）であった。

3. 5 梵天版

中納言ではまだ準備中で個別検索ができなかった「国語研日本語ウェブコーパス」が、梵天版では検索可能であった。先に調査した中納言コーパスでは 2000 年代のデータまでしか格納されていないが、このコーパスは 2014 年 10 月~12 月にインターネット上で 8399 万 2556 の URL から収集した 258 億 3694 万 7421 のコーパスを収録し、文数では 14 億 6314 万 2939、のべ文数は 38 億 8588 万 9575 に上るデータが格納されている。

このコーパスにより、文字列検索を行ったところ、それぞれ以下の件数ヒットした。「浮足立」1799 件、「浮き足立」7626 件、「浮足だ」136 件、「浮き足だ」1153 件、「浮足た」12 件、「浮き足た」63 件の、合計 10789 件である。新聞の用例も多かったが、比ではないほど大量であった。「浮足立つ」はウェブ上の個人ブログなどでよく使われる言葉であると見られる。以下にいくつかあげておく。

・「クリスマス♪ クリスマス♪」と浮足立てば、つられて、やや浮足立ったような (<http://dearume.blog67.fc2.com/blog-date-200912.html>)

・★春は浮足立つ★ (<http://sachi0yolkmtjo.blog90.fc2.com/blog-date-20110304.html>, <http://sachi0yolkmtjo.blog90.fc2.com/blog-date-201103.html>)

・0点 小笠原同様、浮足立ったチームを落ち着かせることが出来ず (<http://kantlers.blog9.fc2.com/blog-date-201106.html>)

・野党等が浮足立って一斉に逃げた (<http://kaiundou.jp/nichibungakuin/modules/pukiwiki/620.html>)

4. 意味分類

前節で抽出した用例から意味を分析したい。新聞の用例に関しては、古い時代のものは少ないため、聞蔵とヨミダスの両方の用例について調べるが、1985年以降のデータは多数あるため、ヨミダスのみを調査する。また、梵天版「国語研日本語ウェブコーパス」に関しても、膨大な量のため、「浮足立つ」1799件にしぼって調査することとする。

先の辞書記述により、「浮足立つ」には「ネガティブな感情」を表すものと、「ポジティブな感情」を表すものがあることが確認できたため、意味を以下のように三つに分類する。なお、Cは「浮足」の文字通りの「かかどが浮いた不安定さ」や、特に感情のない「落ち着かなさ」を表すもの、また「浮足立つ」ということばの意味について説明するために出現したものなどである。

A：ネガティブ感情。恐れや不安で逃げ腰になる。不満やあせりを感じ落ち着かない。

B：ポジティブ感情。喜びや期待で落ち着かずそわそわしている。

C：その他。

なお、分類結果は数を示し、本稿の目的である主にポジティブ感情であるB分類の中から用例を抜粋して掲載することにする。

4. 1 中納言

「ウキアシタツ/ダツ」74件中の分類結果はA52件、B20件、C2件で、この内、Bの初出は1992年であった。以下にいくつかあげる。

・バレンタインデーが近づいて浮き足だってる教室。胸がちくちくする。信之くん。(1992 岡山えりか『好きから始まる冬物語』)

・JRの切符を入手した筆者は、「北斗星に乗れる！」と浮き足立っていたのだが、そんなに甘くなかった。(2000 柳原秀基『システム管理者の眠れない夜』)

・参加者は現地に来たことで浮き足だっており、そんな話は聞きやあしない。(2001 熊谷さとし『哺乳類観察ブック』)

・その平八からつぎつぎとみんなに金がふり分けられていく。受けとるなり、大半は浮き足だつて山をかけおりていった。(2002 中川なをみ『水底の棺』)

4. 2 東洋文庫

「ウキアシタツ/ダツ」27 件中の分類結果はA26 件、B1 件であった。1 件だけ見つかったBの用例は以下である。

・「それこそ自然の愛がなせる業 チョイトンノ師に会いたくて、みんなの心は浮き足だつているのです」(2000 コビイラージュ著頓宮勝訳注『チョイトンノ伝 1』)

4. 3 新聞

両新聞の全用例は 1842 件であったが、その中で記事の詳細が開けず、意味の確認が出来なかったものが 114 件あった。したがって、全 1728 件の用例を意味分類した。

その結果、Aが 1619 件、Bが 102 件、Cが 7 件であった。Aが圧倒的に多いが、新聞ということもあり、古いものは実際の戦争の中での使用で、1945 年以降も主に野球の試合の場での逃げ腰になる感情を表すのに頻繁に用いられていた。その他にも、政治関連の記事での議員のネガティブ感情を表現するものも一定数みつかった。

Bの初出は「うける“ゴールド商法” 自由化目前、浮き足立つ金解禁問題」(1974. 12. 14 朝日東京朝刊)という見出しで、これだけでは意味が確定し難いが、記事の中に「ゴールドラッシュの再来に浮き足だつアメリカ人向けの解説の一節に一」とあったため、Bの期待感と判断した。その他のBの意味の記事もいくつか以下にあげる。

- ・地価狂騰で浮足立つ裏町 (1987. 7. 28 朝日東京夕刊)
- ・ベトナムの実業家たちは、米国の「制裁解除近し」に期待を膨らませ、浮足立ってさえる。(1994. 1. 28 読売東京朝刊)
- ・独身の男たちは突然現れた美女に浮足立つ。年長の津田でさえ、妻を事故で亡くしており、無関心ではいられないようだ。(1994. 11. 5 読売東京夕刊)

4. 4 ウェブ

「国語研日本語ウェブコーパス」の「浮足立つ」の用例 1799 件を全部見たが、「浮き足だっちゃった」だけの短い記述が多い上に、表示されている URL に鍵がかかっていたり、無効であったりし、文脈を確認できないものが多かった。その中の大半はおそらくBだろうと推測されたが、意味がはっきりしないものは除外し、1412 件を分類した。

結果はAが 488 件、Bが 870 件、Cが 54 件で、これまでの他の媒体の調査と異なる、Bが最も多い結果となった。

Aに分類したものには、新聞で抽出されたものと同じ、スポーツの場や政治の場

での使用が多かったが、それ以外の日常の場面での使用も見られた。また、Cに分類した、「不安や期待」などの感情のない、「落ち着かなさ・不安定」を表すものも他媒体に比べ多く見られた。それぞれに分類した用例を以下にあげる。

- ・それでも前半、ガードの====が浮足立ちそうなチームを落ち着かせ、コート上の選手の良さを引き出そうと持ち前のゲームコントロールのうまさを見せる→A (<http://ryukyushimpo.jp/news/storyid-151106-storytopic-2.html>)
- ・中国の強硬姿勢に浮足立った首相==が日中関係の極度の悪化を恐れ、事実上の指揮→A (<http://redcomment.blog129.fc2.com/blog-date-201012.html>, <http://redcomment.blog129.fc2.com/blog-entry-939.html>)
- ・そして、その前段には、「自分を置き去りにして、浮足立った人々がわれさきに逃げ出していく」情景についての想像がだんだんリアルになってきたという事実があると思います→A (<http://hideyosi719.blog84.fc2.com/blog-entry-804.html>)
- ・先週あんなお知らせやこんなお知らせがいっぱい入ってきて浮足立ったし嬉しかったのは確かなんだけど、今現在が不足しててどーしようもないというか→B (<http://blog.livedoor.jp/loveandeight/archives/2010-02.html>, <http://jblogrank.blog26.fc2.com/blog-entry-53.html>)
- ・親父も久しぶりの夫婦2人での海外旅行ということでとっても浮足立っています→B (<http://ameblo.jp/atsuo812/archive1-200910.html>)
- ・世間がバレンタインだの何だので浮足立ってるときに→B (<http://keysong.blog110.fc2.com/blog-date-200802.html>, <http://keysong.blog110.fc2.com/blog-date-20080217.html>, <http://keysong.blog110.fc2.com/blog-category-4.html>)
- ・全体の演奏としては少々浮足立って安定せず乱れてしまった部分もあったが、一時的にそうなるのはよくあることだ→C (<http://ameblo.jp/basstrombone/archive1-200706.html>)
- ・京都鑑定やら引っ越しやらで少々、浮足立ってる管理人です→C (http://ryu.uranaido.net/2010/03/19/post_731.html)

5. 年代別分類結果

前節で意味分類したデータを、書籍（現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版データと東洋文庫データ）、新聞、ウェブの三つに分け、10年ごとの年代別意味分類数の表と、年代別意味分布をグラフに示す。

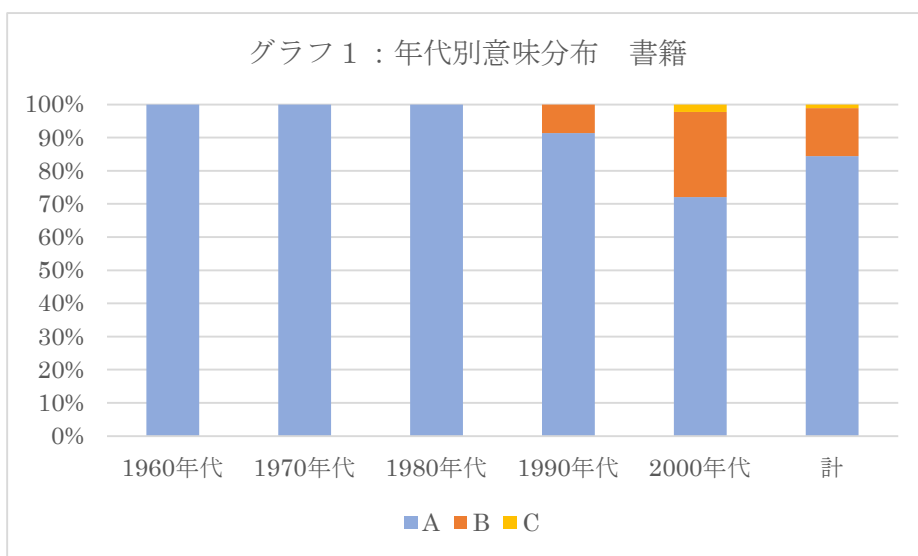
5. 1 書籍

書籍データを確認したかったため、「現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版」の中からYahoo!知恵袋1件とYahoo!ブログ8件を抜いたものと東洋文庫のデータを合わせたもので集計し直した。

表 1：年代別意味分類 書籍

年代	1960	1970	1980	1990	2000	計
A	11	8	5	21	31	76
B	0	0	0	2	11	13
C	0	0	0	0	1	1
計	11	8	5	23	43	90

グラフ 1：年代別意味分布 書籍



書籍によるデータでは、1960年代から見られ、1980年代まではAの意味での使用しか見られないが、1990年代にBの意味が初めて現れ、2000年代に割合が増えてきている。

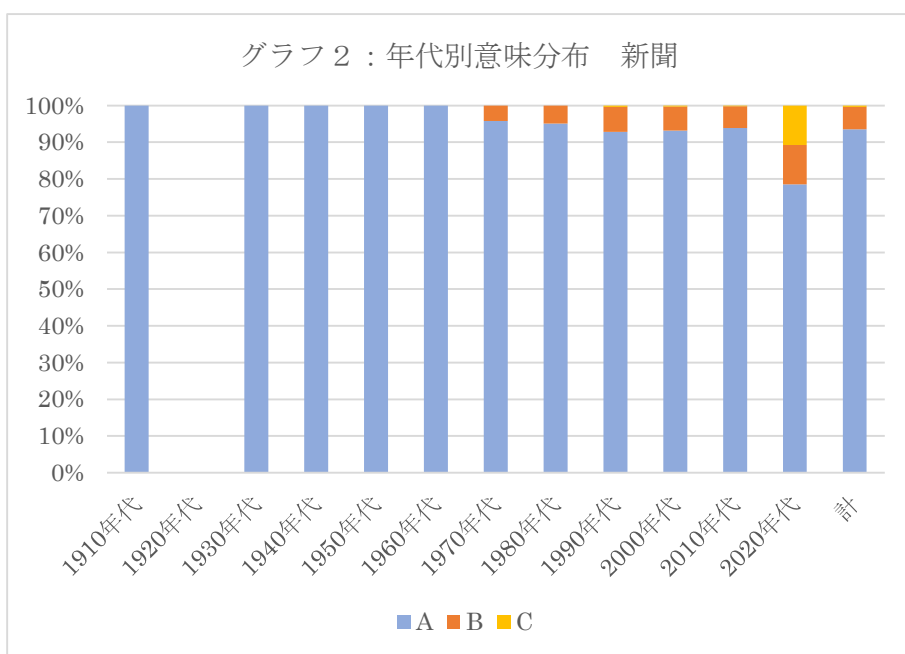
5. 2 新聞

表 2：年代別意味分類 新聞

年代	1910	1920	1930	1940	1950	1960
A	2	0	14	9	10	14

B	0	0	0	0	0	0
C	0	0	0	0	0	0
計	2	0	14	9	10	14

1970	1980	1990	2000	2010	2020	計
23	117	234	670	463	22	1578
1	6	17	47	29	3	103
0	0	1	2	1	3	7
24	123	252	719	493	28	1688



新聞による用例は、書籍より 50 年早い 1910 年代から登場し、1960 年代まではすべて A の意味で使用されている。また、B の意味でも書籍より 20 年早い 1970 年代に初めて現れるが、その後の年代でも B の割合は全体的に少ない。新聞では書き言葉の

規範的な使い方が要求されるためかもしれないが、スポーツなどの試合の記事を書く際に、選手の逃げ腰になっている感情を表現するのに、「浮足立つ」は欠くことのできない定番ワードであると感じられた。

一方、スポーツに関する記事の中にも、ごく近年、Bの意味ではないかと思われるものが見られた。参考までに以下にあげておく。

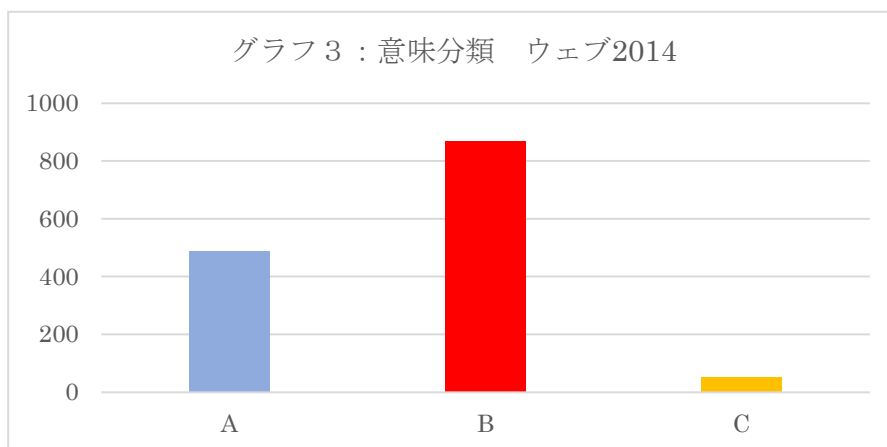
・一方、桐蔭学園の森敬斗主将は「いよいよ始まるということでワクワクしている。拍手も大きく、浮足立たないよう、やっていきたい」と気を引き締めていた。(2019. 03. 24 読売東京朝刊)

・選拔出場が決まり、全体的に浮足立っている2年生21人に、先月、監督のカミナリが落ちた。(2020. 03. 09 読売大阪朝刊)

・勝てば、勢いをそのままに大会を勝ち進んで、新たな星になれる一戦だと、浮足立ってしまったのかかもしれない。強豪との集中力の差が浮き彫りになった。(2020. 07. 29 読売東京朝刊)

5. 3 ウェブ

前節で抽出した1412件のデータはすべて2014年のものなので、ここでは、意味分類別に見やすいようにグラフ3で示す。



ウェブ用例の中にも、スポーツに関する書き込みで、Bの意味かと思われるものが見られた。これまでスポーツの書き込みの定番であった、「強い相手に逃げ腰になっている」ネガティブ感情を表現する規範的使用場面に「出場が決まって」、「勝利を期待して」そわそわするポジティブ感情を表す使用が見られることで、「浮足立つ」ということばの意味が今後ポジティブ感情を表すことばにどんどんシフトしていくのではないかと筆者には推測された。スポーツ場面でのポジティブ感情の例をいくつか以下にあげる。

・前半二点のビハインドでしたが優勝を目の前にして浮足立ったアメリカを丁寧に崩して終了間際逆転勝ちです (<http://xyz2288.blog40.fc2.com/blog-date-200906.html>)

・昨日の大量リード勝ちで浮足立てなければ良いのだけれど・・・汗
(<http://etsuco67.blog95.fc2.com/blog-entry-264.html>)

・ミスが多い演技が多かった気がするが、特定の選手の優勝が確実視できるような勢力図でなかったのも、メダルが狙えそうで浮足立ってしまったのだろうか
(<http://tamkantan.blog133.fc2.com/category3-1.html>)

また、ウェブデータの結果を百分率で表すと、Aが34.6%、Bが61.6%、Cが3.8%であった。ここで、令和元年度「国語に関する世論調査」の結果に戻るが、「(ア) 喜びや期待を感じ、落ち着かずそわそわしている」が60.1%、「(イ) 恐れや不安を感じ、落ち着かずそわそわしている」が26.1%、「(ア) と (イ) の両方」が9.6%、「(ア) (イ) とは全く別の意味」が0.4%、「分からない」が3.8%であった。本稿のAが(イ)に、Bが(ア)に当たるため、世論調査の結果とウェブデータの結果は、大きく異なっていると言えるだろう。

6. おわりに

令和元年度「国語に関する世論調査」の結果から、「浮足立つ」という言葉に注目し自身で調べてみることにしたが、思いのほか、大量の用例が見つかり困惑した。しかし、一つ一つ意味を確認したことにより、時代を追うごとに使われている意味分布の変化を確認することができた。

本稿の調査の中では、三種（書籍・新聞・ウェブ）のデータに異なる結果が現れた。新聞ではネガティブな感情表現に用いられるものが大半であったが、ウェブではポジティブな感情表現で使われる書き込みが最も多かった。書籍に関しては、本稿の調査で抽出できた用例が少なく一概には言えないが、ネガティブな感情表現が全年代通して多いものの、1990年代から出現したポジティブな感情表現が次の2000年代には全体の25.6%に増え、後の年代につながるのではないかと予想された。さらに近年の書籍における調査を今後の課題としたい。

最後に、「ウキアシダツ」の表記についてであるが、新聞やウェブコーパスの検索結果により、後ろの「タツ」は平仮名より漢字表記されることが多いことが確認できた。また、平仮名と漢字の区別による意味の違いは特に認められなかった。一方、前の「ウキアシ」は媒体により正反対で、新聞では全時代通して間に送り仮名のない「浮足」が圧倒的に多いが、ウェブ上では「浮き足」と送り仮名付きが最も多かった。つまり、新聞では「浮足立つ」、ウェブでは「浮き足立つ」のである。

【注】

- (1) 令和元年度「国語に関する世論調査」の結果について | 文化庁 (bunka.go.jp) 「手をこまねく」「敷居が高い」「浮足立つ」の三つの慣用句をあげてどの意味だと思うかを尋ねた結果、何れ

も従来の意味と異なる方が多く選択される調査結果が報告されている。

- (2) 現代日本語書き言葉均衡コーパス中納言版、日本語話し言葉コーパス、日本語日常会話コーパスモニター公開版、昭和話し言葉コーパスモニター公開版、名大会話コーパス、現日建職場談話コーパス、日本語歴史コーパス、日本語諸方言コーパスモニター公開版、多言語母語の日本語学習者横断コーパス

【使用データベース】

- ・ 日本国語大辞典 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2021. 1. 15)
- ・ デジタル大辞泉 (japanknowledge.com) (最終参照日 2021. 1. 15)
- ・ すべてのコンテンツ 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2021. 1. 23)
- ・ 東洋文庫 詳細検索 (japanknowledge.com) (最終参照日 2021. 1. 24)
- ・ コーパス検索アプリケーション『中納言』 (ninjal.ac.jp) (最終参照日 2021. 1. 25)
- ・ 朝日新聞記事データベース 聞蔵 II (asahi.com) (最終参照日 2021. 1. 25)
- ・ ヨミダス歴史館 (yomiuri.co.jp) (最終参照日 2021. 1. 25)
- ・ 国語研日本語ウェブコーパス (NWJC) : 2014-4Q data (ninjal.ac.jp) (最終参照日 2021. 1. 27)

【参考文献】

- 新村出 (2018) 『広辞苑』 (第七版) 岩波書店
北原保雄 (2020) 『明鏡国語辞典』 (第三版) 大修館書店
見坊豪紀他 (2013) 『三省堂国語辞典』 (第七版) 三省堂
山田忠雄他 (2020) 『新明解国語辞典』 (第八版) 三省堂
森岡健二他 (2012) 『集英社国語辞典』 (第三版) 集英社
西尾実他 (2019) 『岩波国語辞典』 (第八版) 岩波書店
松村明 (2019) 『大辞林』 (第四版) 三省堂
金川浩 (2016) 『現代国語例解辞典』 (第五版) 小学館
松村明 (2012) 『大辞泉』 (第二版) 小学館